

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
多機能型障害福祉サービス事業所 ライフチャレンジ		令和7年5月23日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	室内、屋上、園庭など療育（個別・集団）内容毎に対応している。	人数や活動内容で対応や場所を選択している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1	スタッフの体調管理を促しながら配置をしている。	人員配置基準を満たしており、利用人数を把握しながら配置している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	福祉施設ですので基準はクリアしている。	活動前に安全点検を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	受け入れ前後の清掃、アルコール消毒を行い生活を保てる様清掃を行っている。活動に合わせて空間を変え、活動している。	建物の性質上、室内が夏は暑く・冬は寒くなりやすい為、冷房・暖房を使用しての室内を適温に保つ環境設定の他にも建物日よけやフロアマットの設置を検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	個別活動・集団活動・PTによる個別療育。また必要な場面に応じて、個別の部屋をしよう出来る環境設定をしている。	子ども達の様子や活動内容によって環境で配慮している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	ITを取り入れている。	支援開始前・開始後の申し送り、ケース会議定期的な業務改善会議等を通して業務改善につなげている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	全体会議での内容確認を行い、スタッフに共有、業務に繋げている。	アンケート集計結果を会議等で情報共有を行い、業務改善につなげている。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	定期的に話し合いを持ち、スタッフの意見を把握し業務改善につなげている。	□
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	令和6年度より第三者委員会を実施している。外部から意見を参考に支援内容の改善に努めている。	委員からのご指摘を真摯に受け止めて進めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	外部講師を招いての職員研修会を定期的で開催している。	研修報告の内容を確認しながら支援に反映している。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	作成、公表、届出をおこなっている。	HPを利用して公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	アセスメントでは「新サポートノートえいぶる」を活用。また、保護者との相談や面談を通して、定期的にニーズの確認や見直しをおこなっている。	えいぶるを利用しているが、更新ができていないことがあるのでしっかり活用したい。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	原案作成後、個別支援会議を開催。個別支援計画書に基づいた評価、その他様子を共有している。定期の個別支援会議以外にも、必要に応じて個別支援会議を開催している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	個別支援計画書の支援内容を支援員で共有し、計画に沿った支援を行っている。	支援の方向性を確認しながら支援を行っている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	日々の行動観察や関係機関（学校、保護者、他事業所等）との連携・情報共有を通して、利用者の状況を把握を行っている。	アセスメントシートの中身を検討していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	個別支援計画書に支援内容を明記している。	計画書に基づいて様々な支援内容を提供する為の教材準備等を行っている。

な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	毎月、次の月の活動プログラムをチームで立案する会議を設けている。	支援内容の方向性を確認しながら立案している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	固定化されない様、5領域や子ども達のリンクエストを組み込んだ内容を計画している。	様々なプログラムを用意できる様、今後も定期的に会議を設定し 立案していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	子どもの状況に合わせて計画書を作成し、個別・集団活動を適宜組み合わせた支援を行っている。	毎回、状況を確認して安心して子ども達が楽しめる支援が展開できるように観察している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	朝の申し送り時、活動前に打ち合わせ、役割分担を確認しチームで連携し支援を行っている。	その時の要点を絞り、集中して内容の確認ができていたかを重視していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	1	退勤時間が違うため終礼は行えず当日での振り返りは行えないが、翌日の朝礼で情報共有や振り返りを行っている。	一日支援での少しの変化に気づけるような意識をもってもらえるように意識する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	1	HGUのシステムを活用して支援の振り返りを行っている。	支援の記録を参考に支援の検証・改善を行っている。日々の記録をしっかりと残していける様、業務改善を行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	定期的なモニタリングで見直しを行っている。	保護者様から相談しやすい雰囲気を提供できる様心がけている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	4つの基本活動を組み合わせた支援を提供している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	個別活動、全体活動の中で設定された活動場合はあるが、その中で自己選択できる場面を提供している。	子ども達がやりたい事を選ぶ、選択できる様な活動内容や声かけを意識して取り組んでいく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	児童発達支援管理者、または担当者が参画している。	参加していると思う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	保険、医療との連携はあまりないが、その他の関係機関との連携は行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	連絡帳、学校アプリ（スクリレ等）を活用して、保護者・学校等と年間・月間・週間予定の共有を行っている。	利用日や下校時間は保護者や学校に確認し対応している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0	担当者会議等を通して、就学前に利用していたこども園等との間での情報共有・相互理解に努めている。	その都度必要な情報を提供している。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	令和6年度対象の利用者はいない。今後、対象の利用者がいる際には、事業所等への情報提供を行ってきたい。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	6	令和6年度、児童発達支援センターとの連携を図る機会は無かった。	令和6年度、地域の児童発達支援センターとの連携がなかった為、土屋先生からの助言をいただき参考にしている。次年度研修への参加等連携できる様検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	0	法人の開催する行事（運動会、ハロウィン等）や地域の児童館利用や図書館の読み聞かせ会を通しての地域交流をしている。	様々な活動を通して交流をしているが、これまで以上に交流し、継続していけるように取り組んでいく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5		令和6年度参加していない。	地域の協議会の活動の情報収集を行っている。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎の際の申し送りや定期的な話し合いを通して、情報共有を行っている。	今後は視覚的にも見れる様対応していく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	保護者向けの全体での研修（年金、保育所等訪問等の研修）や外部の講師（土屋先生）による個別の保護者相談の機会を設定した。	次年度は更に性教育の研修を検討予定。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に説明を行っている。また、質問等がある際には、その都度丁寧な説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	モニタリング以外でも必要であれば確認を行っている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	契約時やモニタリングの際にも確認している。	出来るだけ丁寧に伝えて理解して頂ける様にご説明している。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	相談がある際には、時間を設けて家族相談を行っている。	土屋先生や理学療法士からの助言等を行っている。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	3	法人が主催する行事（運動会やクリスマス会、リトミック発表会等）を通して家族参加で交流する機会を提供している。	・保護者交流会等で悩みや相談ごとを共有する場を設けてもいいのではないか。→気軽に交流できる場を設けられる様検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	1	その都度、利用者や保護者からの困り事やご意見があった際には、迅速に対応を行っている。	職員で共有は出来ているが、適宜子供達や保護者全体への周知をする必要がある。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	SNS (facebook,Instagram)を活用し、日々の活動の様子・行事や研修案内等の案内を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵付きの書庫や情報漏洩防止の為サーバーを導入し管理している。	個人情報保護法についての外部講師の方から研修を行い、留意している。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	お子さんによってジェスチャーや絵カード等で意思伝達を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	法人が主催するイベント（フリーマーケット、ハロウィン等）を通して、地域住民との交流を行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	研修や訓練を通して職員への周知を行っている。	職員への周知は研修や訓練等を実施し、家族様へは利用契約時に説明を行なっている。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	避難訓練（火災・年1回、地震津波年1回）実施している。	消防署に届出をし、訓練を行っているが訓練の内容を更に検討する必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	契約時の事前の聞き取りをし、服薬状況や発作時の対応法等を確認。全スタッフで共有している。また、その都度保護者と情報共有し子どもの状況確認を行っている。	消防士を講師にお呼びし研修を行っている。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	医師の指示書に基づき、保護者との確認（食物アレルギーの内容、対応、おやつ提供内容）を行っている。	ダブルチェックで誤って提供しないように対応している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	災害や防犯等、予測される事項について研修を行っている。	毎回、前回の反省や課題を活かし、内容を変更しながら行っている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	2	怪我をした時の病院の対応、その前の安全確保等、職員で確認している。	非常時、児童の引き渡し場所や方法を家族と共有したり、欠席児童の家族との連携（安全確認など）のルール化が必要。今後内容・具体的な取り組みを検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	ヒヤリハットがあればすぐにスタッフ間で共有し、事前の安全な環境整備や支援方法、事故や怪我発生時の病院の対応、再発防止の取り組みを確認している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	講師をお呼びして研修を定期的に行っている。	虐待のニュース等があればその都度、共有したりスタッフの状態の把握を行っている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	4	対象者なし。	・身体拘束の必要性や代替案などを検討する統一評価が必要。今後統一評価の設定を検討。